



杉原千畝氏 拡充 顕彰施設

■9月県議会開会

愛知県議会9月定例会開会初日の9月21日には、44億7千万余円増の一般会計補正予算、要配慮個人情報への取扱いに係る規定を整備するなどの個人情報保護条例の一部改正などの条例関係8件、その他の議案12件と合わせて21議案が提出されました。また、平成28年度の決算認定については例年通り決算特別委員会による閉会中の継続審査となる見通しです。

予算関係の主なものは、愛知環状鉄道のICカード乗車券導入(平成31年春予定)に向けた整備に7千7百万円、子ども食堂支援調査費などの**子どもの貧困対策**に9百万余円、インドネシアに県内企業の相談窓口となるサポートデスク設置(平成30年1月開設予定)に2百万余円、名城公園北園への**県体育館移転新築**の検討に必要な諸条件の調査に2千万円、ユネスコ「世界の記憶」に登録見込みの**杉原千畝氏の顕彰施設**の展示の拡充を図る債務負担行為6千4百万円などです。

■総務県民委員会県外調査 17.09.04~06

富山県広域消防防災センター(総工費約49億円)は、45mの主訓練塔、水深10mの水難救助プールほか定員60名(うち女子用8名)の宿泊棟など充実した施設に加え、年間3万人が利用する体験型学習施設四季防災館を備えています。災害が複雑化、多様化、大規模化するなか本県も名古屋市と連携した施設整備が急務です。



県外調査2日目は、**金沢21世紀美術館**を調査、昨年度の来館者数は255万人を超え、平成29年度の予算8億4千万円に対し、金沢市の負担は4億円と収支的にも優れています。**石川県議会**では、スポーツのさらなる振興を図るため今年度から学校体育を除くスポーツ行政を教育委員会から知事部局に移管した組織改正の経緯・現状や、いしかわ移住パスポート(1パス)などについて調査しました。

県外調査3日目は、消防学校、訓練施設、活動支援施設を有し、平常時及び大規模災害時に対応した消防活動拠点である**京都市消防活動総合センター**と**京都市消防学校**の取組について調査しました。総事業費111億円、各種情報を盛り込んだ署員による地図など多くの示唆を頂きました。また、早い通報、速やかな出動、適確な情報判断による救出・消火で狭い町屋でも全焼前に消し止めており、火災報知器の重要性を再認識しました。



STEP 21 県政 REPORT



愛知県議会議員 **すずき 純**

鈴木じゅん事務所 〒492-8229 稲沢市稲島11-24
Tel 24-6600 Fax 23-0791 juneri@na.commufa.jp

1709

■鈴木じゅん代表質問

総務会長以来2度目となる代表質問に幹事長として登壇させていただきました。(以下抜粋)

【ライフシフト、長寿社会への対応について】

連合愛知地域政策推進フォーラムで紹介された「ライフシフト100年時代の人生戦略」は、2007年生まれの子ども半数が107歳に到達するという衝撃的な話でした。また、経済産業省の次官・若手による「不安な個人、立ちすくむ国家～モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか～」の中でも人生100年等に対する問題提起がされました。日本老年学会等も65歳以上の方は10～20年前と比べ5～10歳ほど若返っていると考えられるとし、高齢者の定義を75歳以上に見直ように提言を1月に発表しています。子育て・介護・治療をしながらなど個人の状況に応じて長く働くことができる社会へ大きく舵を切る時であると思います。そこで、少子高齢社会、人口減少社会の対応に加え、幸せな健康長寿社会へ向け、長寿化に伴う人口構造の変化をどう捉え、また、取り組むべき課題と政策の方向性について伺いました。

【知事答弁】長寿社会を持続可能なものとしていくために、健康寿命の延伸や学び直しのためのリカレント教育等により長い人生を通して必要なスキルを高めながらキャリアアップできるような機会を確保し、生涯現役の社会を目指す。

その他、子どもの貧困対策の取組の強化、愛知の基幹産業である自動車産業への取組、熊本地震で被害のあった新耐震基準の木造住宅の問題、愛知県地震防災推進条例が制定から13年経過している本県の防災・減災対策の今後の取組、次世代産業の要である航空機産業への更なる取組、中小企業のプロフェッショナル人材等の確保、2023年の技能五輪国際大会の誘致を目指すものづくり愛知への支援強化、2026年のアジア競技大会に向けたスポーツの振興、生活道路における交通安全対策について県の取組を質しました。

■中京大都市圏形成調査特別委員会県外調査

品川駅周辺は、羽田空港の国際化・リニア中央新幹線の開業など広域交通整備が進捗し新駅や周辺整備により、東京中心部の地域構造の変化が進んでいます。都内の現在のポテンシャル(乗降客数)は、新宿駅365万人、渋谷駅302万人、池袋駅252万人、東京駅110万人、品川駅94万人ですが、UR都市機構が実施するJRの操車場跡地を利用した大規模な土地利用転換を図る計画(約14.7ha 事業費約592億円)により新たに100万㎡もの業務商業施設等が創出されるといいます。東京都における都市構造の変化と共に、ストロー現象が現実味を帯び、県を挙げての対応の必要性を痛感しました。(稲沢の旧国鉄操車場跡地は約28ha、開発地域全体で約63.3haです)



●稲沢市総合防災訓練が大里中、稲沢中、祖父江中の3会場で実施。昨年まで一箇所の開催でしたが次の開催まで9年間と間が空くことから防災意識向上のために改善。また、訓練も視察から参加・体験型に改め鈴木が参加した大里西市民センター地区ではクロスロードゲームや車椅子を用いた災害時要配慮者支援訓練、防災資機材使用訓練など多彩に実施され住民の皆さんも額に汗して真剣に取り組んで頂きました。

イベントなど

- 10月7日サンドフェスタ2017
- 8日稲沢市消防団観開式
- 14日稲沢まつり開場式
- 22日衆議院総選挙投票?

STEP2



桐生選手が日本人初の9秒台を達成!

土江コーチとの衝突と絆、ライバルの台頭など苦闘の4年間を乗り越えての笑顔です。ライバルといえばサッチャー元首相は野党の重要性を指摘していましたが解散のきっかけが野党で申し訳ありません…

未来へつづくまじづくいの一生懸命動きます。愛知県議会議員 鈴木じゅん